

「アスクル資源循環プラットフォーム」発 アスクル新 PB シリーズ「Matakul」(マタクル) 誕生！ 使用済みクリアホルダーから生まれた 4 商品、本日より販売開始。

～独自の回収スキームにて再資源化、100%再生プラスチックを原料とした製品化を実現！～

アスクル株式会社(本社:東京都江東区、代表取締役社長:吉岡 晃)は本日12月14日(水)より、事業所向け(BtoB)通販サービス「ASKUL」「ソコエルアリーナ」において、「アスクル資源循環プラットフォーム」の取組みから生まれた新 PB シリーズ「Matakul(マタクル)」を発売します。第一弾としては、オフィスで使用できる4種類の商品「クリアホルダーからつくったクリアホルダー」、「クリアホルダーからつくったジェットストリームボールペン」「クリアホルダーからつくったブリックス ペン立て/小物入れ」を販売開始します。

本シリーズは、アスクル独自に構築した「使用済みクリアホルダー回収リサイクルスキーム」に則り、広く国内の事業所より使用済みクリアホルダーの提供を受け、分別・再資源化し、製品化を実現したものです。今回販売を開始するオフィスで使用できる4商品は全て、ポストコンシューマー材(※1)の再生プラスチックを100%原料(※2)として誕生しました。

当社は事業所向け通販においてクリアホルダーの取扱いで高いシェアを占めてきたことから、「販売事業者としての責任」を果たすべく資源循環に着目しました。2020年11月からの環境省「脱炭素社会を支えるプラスチック等資源循環システム構築実証事業」での検証を経て事業化し、このたび新 PB シリーズがスタートします。

(※1) 消費者によって使用された材料 (※2) ジェットストリームボールペンは軸本体のみ、ブリックス ペン立て、小物入れは着色剤を除く



Matakul

- ・クリアホルダーからつくったクリアホルダー
- ・クリアホルダーからつくったジェットストリームボールペン
- ・クリアホルダーからつくったブリックス ペン立て
- ・クリアホルダーからつくったブリックス 小物入れ

■「Matakul(マタクル)」シリーズに込めた想い

資源循環プラットフォームから生まれた、アスクルの PB 商品のシリーズ。クリアホルダー等を再生し、次の製品へつなげる新たな循環の取組みで、使用済み商品が「また、戻って来る」ことをストレートに表現。本シリーズ商品のコンセプトは、「使い捨て」が前提ではない「長く使える」(循環可能な)商材を選定の上、商品化を進めます。

■新 PB シリーズ「Matakul(マタクル)」誕生の背景

昨今、プラスチックごみの削減や資源の有効活用の動きが広がり、プラスチックのリサイクルに関する関心が高まっています。しかしながらオフィス用品においては回収・リサイクルが進んでおらず、特に全国の事業所から大量に排出される使用済みクリアホルダーは廃棄されていることが想定されます。

こうした現状を踏まえ、アスクルでは国内でのクリアホルダーの販売シェアが高いことから、販売事業者としての責任という観点でクリアホルダー資源循環に着目しました。クリアホルダーは、単一素材で形状も一定のため、回収・リサイクルに適していると考え、環境省「令和2年度脱炭素社会を支えるプラスチック等資源循環システム構築実証事業」にて、クリアホルダーを対象とした実証事業に挑戦。独自の回収スキームを構築し、回収量および再資源化、製品化を検証の上、実証事業終了後の2022年4月、正式に事業化しました。

2022年10月までに累計680事業所の参加で使用済みクリアホルダー回収が進み、累計79トンにおよぶクリアホルダーを回収。これを再生ペレットへ再資源化し、ポストコンシューマー材の再生プラスチックを原料とした製品化が実現しました。なお、本取組みでは、99%という高いリサイクル率を実現していることから、使用済みクリアホルダーを提供する事業者の、資源循環に対する意識の高さが表れています。



■バージン材を含まない、100%再生プラスチック原料での商品化を実現

回収した使用済みクリアホルダーはまず、分別事業者により、透明・色・柄・文字入りの2種類に分別されます。そして再生原料製造事業者に運ばれ、溶解、再生ペレット化されます。専門家の物性の分析と評価で回収した使用済みクリアホルダーを原料とした再生ペレットの品質が製品化する上での条件をクリアしていることが確認できたことで、製品化が実現しました。

実際に販売する商品選定にあたっては、実証事業時に協力企業から要望が多く寄せられた水平リサイクル(※3)のクリアホルダーを筆頭に、身近な製品であるオフィス用品の試作を重ね、最終的に、クリアホルダー、ボールペン、ペン立て・小物入れの4種類の商品化となりました。

なお、「Matakul(マタクル)」の中でも、使用済みクリアホルダーを原料としている商品については右記のマークを商品に明記しています。

(※3)使用済みの製品が資源となり、また同じ製品として生まれ変わるリサイクルシステム



色・柄・文字入りの使用済みクリアホルダーで製造した再生ペレット(再生材)



Hello, I am back!

使用済みクリアホルダーからできています

■12月14日販売開始 商品ラインナップ

クリアホルダーからつくったクリアホルダー〈リヒトラブ〉



<ASKUL サイト URL>

<https://www.askul.co.jp/p/NN90024/>

	入数	金額(税込)
①	1袋(10枚入)	199円



Hello, I am back!

使用済みクリアホルダーからできています

【商品特徴】

- ・使用済みのクリアホルダーを使用した「水平リサイクル」の商品
- ・再生材料ならではの多少の凹凸や黒点がついているものも商品の特徴とし、あえて省かずに商品化
- ・一番スタンダードなA4サイズ、厚み0.2mmのクリアホルダー

クリアホルダーからつくったジェットストリームボールペン〈三菱鉛筆〉



<ASKUL サイト URL>

<https://www.askul.co.jp/p/NN90023/>

	入数	金額(税込)
①	1本	168円
②	1箱(10本入)	1,580円



Hello, I am back!

使用済みクリアホルダーからできています

【商品特徴】

- ・使用済みのクリアホルダーを使用した100%再生プラスチックをボールペンの軸の材料として使用
- ・三菱鉛筆の人気ブランド、クセになる、なめらかな書き味とのジェットストリームインクを搭載
- ・替芯の交換が可能なので軸本体を長く使用可能
- ・本体のシールもPP製で、はがさずリサイクル可能

クリアホルダーからつくったブリックス ペン立て〈ライクイット〉



<ASKUL サイト URL>

<https://www.askul.co.jp/p/HA69642/>

	入数	金額(税込)
①	1 個	418 円
②	5 個	1,990 円



Hello, I am back!

使用済みクリアホルダーからできています

クリアホルダーからつくったブリックス 小物入れ



<ASKUL サイト URL>

<https://www.askul.co.jp/p/HA69641/>

	入数	金額(税込)
①	1 個	618 円
②	5 個	2,840 円



Hello, I am back!

使用済みクリアホルダーからできています

【商品特徴】

- ・使用済みの色付きクリアホルダーや名入りのクリアホルダーを再生し、原材料として 100% 使用（※着色剤を除く）
- ・色付きのクリアホルダーを再生した再生樹脂特有のカラーを活かしたトレンドのアースカラー
- ・単一素材のため再度再生することが可能

アスクルはこれからも、お客様の新たなニーズや社会課題を解決する商品・サービスのさらなる拡充に取り組み、すべての仕事場に「うれしい」を届け続けるために、進化を続けてまいります。

<関連プレスリリース>

- 2020 年 12 月 14 日

環境省の「令和2年度脱炭素社会を支えるプラスチック等資源循環システム構築実証事業」に選定

<https://pdf.irpocket.com/C0032/j9N9/wDQw/LzS3.pdf>

- 2022 年 10 月 5 日

アスクルの資源循環の取組みを発信する Web サイト「アスクル資源循環プラットフォーム」を本日開設！

<https://pdf.irpocket.com/C0032/f909/jIG3/lwAV.pdf>

<特設サイト>

- 資源循環の取組みを発信する Web サイト「アスクル資源循環プラットフォーム」

<https://www.askul.co.jp/kaisy/shigen/>

※本リリースに掲載の情報は発表日現在の情報です。その後予告なしに変更されることがございますのでご了承ください。

参考

■アスクル資源循環プラットフォームの実績

クリアホルダーが単一素材、ほぼ同一形状であることに着目し、効率のよい資源循環を実現できるという考えに基づき、2020年11月から2022年3月までの期間、「使用済みプラスチック製品のリサイクルバリューチェーン構築実証事業」を実施しました（環境省「令和2年度脱炭素社会を支えるプラスチック等資源循環システム構築実証事業」に採択）。実証事業終了後も引き続き使用済みクリアホルダーの回収を続け、2022年10月までの回収実績は以下の通りとなりました。当初の想定を大きく上回るペースでクリアホルダーの回収が進み、企業の関心が高いことが判明しました。

【使用済みクリアホルダー回収実績】（期間：2021年1月～2022年10月）

種別	重量(トン)	仕样例
透明	58	一般的な透明のクリアホルダー
色・柄	20	企業名入れ、カラー、ノベルティ用途など
その他	1	リサイクルが難しいもの（シール紙付き、リフィル等の別素材）
合計	79	

*うち、2021年1月から2022年3月は環境省「令和2年度脱炭素社会を支えるプラスチック等資源循環システム構築実証事業」としての回収実績。

【クリアホルダー資源循環への参加社数】（2021年1月～2022年10月）

累計 680社（参加単位のため事業所カウントを含む）

以上